

# 長野県図書館協会

## デジタル版 小中学校図書館部会だより

第152号（平成30年度）

### 平成30年度小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館部会小中学校図書館部会

副部長 千曲市立更級小学校 浅井かよ子

本年度の長野県図書館協会小中学校部会のテーマは、「豊かな学びを支える学校図書館 ～司書教諭と学校司書との連携による読書・学習・情報センター～」でした。本年度も県大会をはじめ各地区大会で実践発表や講演会、授業公開や授業研究会などが実施され、参加者の研修を深めながら大きな成果を得ることができました。

部会では、司書教諭委員会、学校司書委員会、推薦課題図書選定委員会、読書感想文・感想画コンクール、出版物利用促進、部会だよりの各部において活動してまいりました。今年も県下各校より読書感想文・感想画が寄せられ、「小学校高学年 自由読書の部」で、上田市立丸子中央小学校五年 荻原育さんがサントリー奨励賞を受賞しました。2年ぶりの全国入賞です。各支部の取り組みならびにご指導いただいた先生方に感謝申し上げます。

11月10日（土）には第68回長野県図書館大会が駒ヶ根市で開催されました。大会テーマ「地域と共に知り、共に創る」のもと、午前中は駒ヶ根市文化会館ホールにて開会式と講演会、午後は赤穂中学校と駒ヶ根総合文化センターにて分科会がおこなわれました。講演会では、姜 尚中先生に「漱石と司馬遼太郎の見た明治国家」の演題でお話いただきました。現代社会におけるグローバル化にどう向き合えばよいのかということ「文明開化」で活気づいた明治国家論から考え、地域が活性化することにより、潤いのある社会になっていくこと、そして、「公共図書館は、地域をつくるよりどころ」と、図書館の意義や活動の大切さについてご講演をいただきました。講演会には大ホールいっぱいの1000人近い方々にお越しいただき、熱心に聴講していただくことができました。

午後の分科会では、公共図書館部会、高等学校図書館部会、大学・専門図書館部会、開催地企画、公募型分科会が主催した12の分科会のうち小中学校部会では5つの分科会を準備・運営いたしました。県内各地の実践から学び合い、参会者の皆様から「普段、校内に一人しかいない職種でも他校の実践や自校の様子を振り返ることで、決して一人ではないのだなと感じました」「分科会は、実践を共有する場としても大切」「大変貴重な機会である。ここで学びあう意義は大きい」などの感想をいただき有意義な会になりました。

また、各地区の学校図書館教育研究大会は、中信地区が松本支部の松本市立菅野小学校・菅野中学校、北信地区が飯水支部の飯山市立泉台小学校・城北中学校を会場に行われ、充実した研修の場となったことが報告されました。

最後になりましたが、本年度の長野県図書館協会小中学校部会の活動にご協力いただきました皆様にお礼を申し上げるとともに、平成31年度第69回長野県図書館大会（上小大会）へのご協力をお願いいたしまして活動報告といたします。

## 支部だより

### 長水支部

長野支部代表 長野市立信更小学校 千葉 節子

長水支部は、長野上水内の小学校58校、中学校28校、小中学校1校、計87校という大きな組織で、管内の3公立図書館や図書館関係諸団体と連携して、以下の活動を進めて参りました。

#### 1 活動内容

##### (1) 長水図書館協会総会・研修会

###### ①支部総会

○期日： 6月19日(火) 更級教育館 大会議室

###### ②支部研修会(講演会)

○講師： 牛山 圭吾 先生 (前長野県図書館協会会長・全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー)

演題：「読み聞かせ基本のき」

○参会者の感想から：昨年度に続いての牛山先生のお話を楽しみにしていました。読み聞かせに向く本はたくさんありますが、昔から大切にされてきた誰もが知っている絵本でも、その読み方やページのめくり方で、その効果はだいぶ違うことを感じました。早速、自校でも学んだことを活かして実践していきたいです。

##### (2) 第68回長野県図書館大会(駒ヶ根大会)への参加

○期日：11月10日(土)

○大会テーマ：「地域と共に知り、共に創る」

○参加者：分散会記録者(分科会7) 大豆島小学校 野口 みどり教諭 ほか 25名

##### (3) 第41回長野県読書感想文コンクールへの募集と支部審査

○長水支部審査 9月28日(金) 更級教育館

○応募総数 793編(小学校395編 中学校398編) 金賞7編 銀賞6編 銅賞9編

#### 2 活動を振り返って

○長水図書館協会総会と同日、講演会を行ったが、学校司書の先生方のニーズに合っており、講評だった。今後もこのような研修の機会を設けていきたい。

○読書感想文応募作品に、字数超過が目立ち残念だった。応募規定を周知する必要がある。審査員の先生方には、限られた時間の中、大変熱心に審査していただいた。

○長野県図書館協会事務局等から連絡のあった各種大会や研修会への案内を、管内の各校へ配信した。今後も、学びの機会を紹介していきたい。

## 木曾支部

木曾支部代表 王滝村立王滝小中学校 中沢 寛

木曾支部は、木祖村、木曾町、王滝村、上松町、大桑村、南木曾町の小学校9校、中学校8校計17校により構成されています。(内2校は小中併設校)

### 1 活動内容

(1) 第41回県読書感想文への参加 選定委員4名

○木曾支部審査10月5日(金) 木曾教育会館

応募総数66編(小学校31編 中学校35編)

県送付作品数29編(小学校21編 中学校8編)

(2) 郡図書館教育研究協議会について

一昨年度より教育会の図書館教育委員会を休止したので、下記の郡司書部会の活動に合わせて研究協議会とした。

司書部会の活動(各校司書・木曾町図書館司書)

第1回…… 5月24日(木) 木曾町文化交流センター 役員選出・事業計画立案

第2回…… 6月28日(木) 南木曾小中学校

第3回…… 8月3日(金) 木曾町文化交流センター 一日研修会

(講師: 県立長野図書館企画協力課 朝倉久美 様)

第4回…… 9月13日(木) 王滝小中学校

第5回…… 12月12日(水) 上松小学校

第6回…… 2月1日(金) 木曾町文化交流センター

(3) 図書館大会への参加

① 中信地区図書館大会 10月11日(木) 参加者10名

松本市立菅野小学校・中学校

② 県図書館大会 11月10日(土) 参加者14名

駒ヶ根市総合文化センター・赤穂中学校

### 2 活動を振り返って

○中信および県の図書館大会は司書の先生方を中心に多数参加していただき、有意義な研修となった。

○読書感想文については、各校の実情に応じて指導を工夫して応募を呼びかけたい。一方で見直しの要望もある。

○司書部会では積極的な情報交換等を通し、情報活用能力の育成をはじめとする図書館教育の向上、よりよい図書館運営のあり方について参考となるものを得ることができた。

○木曾の子どもたちの読書指導のあり方や、よりよい図書館運営についての研究が継続できる組織でありたいと思う。読書センター機能、学習センター機能、情報センター機能と学校司書に求められる職務が増える中で、各校の図書館教育担当教員とどのように連携するかが課題である。

### 背中を押してくれたステップアップ研修

長野市立古里小学校 田中 千恵子

「ビブリオバトル？」やってみたいけど、自分の思いを伝えるのが苦手な子が多いからどうかなあ…、バトルでいやな気持ちになる子がいたら…と迷っている時だったので、その雰囲気を知りたくて参加しました。

研修会では、ビブリオバトルのルール・実施までの流れ・実施した時の子どもたちの様子などをお聞きした後、参加者でグループに分かれ実際にやってみました。自分で発表をしてみると、タイマーによる時間制限があって緊張はするものの、相手の顔を見て表情がわかるというのは安心できるなあと感じました。私が紹介した本はチャンプ本にはならなかったのですが、読んだことがなかった本の魅力を教えてもらえたことがとてもうれしかったです。また最後に、持ち寄った本を広げて、手に取ってみたい、参加者同士で「よかったよ」と紹介が始まったり…。楽しいひとときが持てました。

自分で経験したビブリオバトルの楽しさと、『読書活動のひとつだが、目的や成果を期待しすぎない』という言葉に、まずやってみようと思うことができた研修でした。

学校に戻り、6年生の先生方に相談をし、小学校最後の読書旬間にやってみようということになりました。

①まず、私がバトラーになり子どもたちの前で発表しました。いつもの読み聞かせと違って自分の言葉で話さなくてはいけないし、時間も気になり、思いの外緊張！でも子どもたちのうなずきや笑いもうれしくなり、ディスカッションの質問で盛り上げてもらって終了。この時、聞く人の姿勢・雰囲気が、発表に大きな影響を与えることを感じました。

②その後、子どもたちが、自分が紹介したい本をさがし、台本を作るつもりで発表の用意をしました。「基本は、原稿を読むのではなく友だちの顔を見ながら話すこと。」「その本と自分のエピソードを話すと聞いていて楽しいし質問も出しやすいこと。」等のアドバイスを加えました。

③いよいよ本番。少し緊張気味の子どもたちに「いい発表のかけにはいい観客あり」と伝えて始めました。ほとんど原稿を読んでいる子、反対にわずかなメモだけで進めている子、3分は意外と長くタイマーをチラチラ見る子…。でも緊張感はなくなり和やかな雰囲気が流れていました。そして3分。タイマーが鳴った時、わーっと拍手が起きました。私は予想していなかったため、びっくりとうれしさをいっぱいになりました。

終了後も本を囲んで話が弾んだり、「どれも読みたくて迷っちゃった」という声が聞こえたり、楽しんでくれた様子にうれしくなりました。また、3クラスのチャンプ本22冊は、図書館内で紹介・展示して、他学年の子どもたちにも読んでもらいました。

学校図書館には様々な役割が求められる一方、新しい取り組みに踏み出すことはなかなか難しいのですが、今回のような研修でヒントをいただくとありがたいと思いました。

(長野県図書館協会小中学校図書館部会よりお願い：児童の写真を掲載していますので、正規の目的以外でのご使用はお控え下さいますようお願いいたします。)



## 読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

幹事 長野市立徳間小学校 清水 克則

平成30年度、第41回長野県読書感想文コンクールについて報告します。各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：339校	◇応募作品数：5471編
◇県入選（県応募）作品数：631編	◇県入賞作品数：234編
◇中央審査会応募作品数：8編	◇中央入賞作品数：1編
※小・中合計数で表示	

応募校数は昨年度と比べ、若干減りました。応募作品総数は昨年度に比べ、400編以上増加しました。昨年同様、5000編台となりました。中央審査に応募した作品の中から、小高 自由読書の部で上田市立丸子中央小学校5年の荻原育さんが、サントリー奨励賞を受賞したことは、本県にとって2年ぶりのことであり、大変嬉しいことです。各支部で呼びかけくださり、各校で取り組んでくださったことに感謝致します。また多くの感想文を精読し、多くの時間を費やして厳正に審査いただいた支部・県審査委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

県審査員の先生方からは「内容面では優れていても、字数制限に合わない、原本でなくコピーで応募されている等の理由で入賞できなかった作品が幾編もあり、非常にもったいないと感じた」というご指摘がありました。これは毎年出される課題です。各校では、ご指導の際に字数にご配慮いただくこと、要項に沿った応募を心がけていただきますことを引き続きお願いいたします。

一方で「本の内容と自分の経験したことを上手にからめて書かれている作品が上位に入ったように思う」「世界情勢に言及している作品もあり、子どもの眼の素晴らしさを感じた」「文章のうまさよりも、考えのよさ、文から滲み出る人柄のよさに心をひかれる作品が多かった」等の貴重な感想もいただきました。今後も子どもたちが読書の世界に浸りこむご支援をいただく中で、意欲的な感想文の応募を賜りますようお願いいたします。

また、平成30年度の読書感想画コンクールについては、各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：29校	◇応募作品数：787点
◇中央コンクール応募作品数：8点	※小・中合計数で表示

本年度応募校は昨年度より5校多い29校となり、応募作品数は、昨年度の215編から大幅に増加して787編となりました。学級単位で取り組んでいただいた学校も多かったように思われます。担任、顧問の先生のご指導により、数多くの力作が寄せられました。表現方法が実に多彩で、版画や貼り絵なども取り入れ、子どもたちの想像力が存分に生かされた個性あふれる作品がたくさん見られました。大変ワクワクする思いで審査にあたらせていただきました。

本コンクールに応募して下さった児童生徒の皆さん、応募に際してご尽力いただいた先生方に感謝申し上げます。

子どもたちにとって、読書がより楽しくなり、心豊かになるような両コンクールでありたいと願っております。来年度もよろしくお願いいたします。

部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第152号  
発行日 平成31年3月13日  
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内  
長野県図書館協会 小中学校図書館部会（代表 宮尾弘子）